

京都市告示第 600 号

京都市名誉市民表彰条例の規定に基づき、平成 31 年 2 月 19 日付けで次の者を京都市名誉市民として表彰しました。

平成 31 年 3 月 1 日

京都市長 門川 大作

氏 名 本 庶 佑

1 略歴

昭和37年 3 月	京都大学医学部進学課程修了
昭和41年 3 月	京都大学医学部卒業
昭和46年 3 月	京都大学大学院医学研究科生理系博士課程退学
昭和46年 4 月から	京都大学医学部副手
昭和47年 3 月まで	
昭和46年 9 月から	カーネギー研究所発生学部門招へい研究員
昭和48年 6 月まで	
昭和48年 7 月から	米国国立衛生研究所客員研究員
昭和49年10月まで	
昭和49年11月から	東京大学医学部助手
昭和54年11月まで	
昭和50年 1 月	京都大学大学院医学研究科生理系博士課程修了
昭和54年12月から	大阪大学医学部教授
昭和59年 2 月まで	
昭和59年 3 月から	京都大学医学部教授
平成17年 3 月まで	
平成 8 年10月から	京都大学大学院医学研究科長・医学部長併任
平成12年 9 月まで	

平成11年4月から	高等教育局科学官併任
平成14年3月まで	
平成13年1月から	文部科学事務官（高等教育局科学官）併任
平成16年3月まで	
平成14年10月から	京都大学大学院医学研究科長・医学部長併任
平成16年9月まで	
平成16年4月から	日本学術振興会学術システム研究センター所長併任
平成18年6月まで	
平成17年4月	京都大学名誉教授
平成17年4月から	京都大学大学院医学研究科特任教授
現　　在まで	
平成18年6月から	京都大学客員教授
平成29年4月まで	
平成24年4月から	静岡県公立大学法人静岡県立大学理事長
平成29年4月まで	
平成27年7月から	公益財団法人先端医療振興財団（現公益財団法人神戸医療産業都市機構）理事長
現　　在まで	
平成29年5月から	京都大学高等研究院特別教授
平成30年3月まで	
平成30年4月から	京都大学高等研究院副院長・特別教授
現　　在まで	

## 2 受賞

昭和56年	第25回野口英世記念医学賞
昭和57年	昭和56年度朝日賞（朝日新聞社）
平成8年	恩賜賞・日本学士院賞

平成12年	文化功労者
平成13年	アメリカ科学アカデミー会員
平成16年	Thomson Scientific Research Front Award 2004
平成24年	ロベルト・コッホ賞
平成25年	文化勲章
平成26年	唐奨, ウィリアム・コーリー賞, 京都市特別功労賞
平成27年	Smalley Award
平成28年	京都賞, 慶應医学賞, Fudan - Zhongzhi Science Award in Biomedicine
平成29年	Warren Alpert財団賞, バイオインダストリー大賞
平成30年	第71回日本医師会最高優功賞, ノーベル生理学・医学賞

### 3 業績

氏は、平成4年に、免疫細胞の働きを抑制する「PD-1」分子を発見。PD-1を阻害することでがんを治療する新しいがん治療薬の開発に結び付いた。この画期的な免疫療法を確立された功績によりノーベル生理学・医学賞を受賞された。

氏の研究成果である新たな治療薬は、様々ながん種に劇的な効果が確認されており、これまでのがん治療を一変させるものとして、医学・医療全般の可能性を大きく広げるものと期待されており、その功績は誠に顕著である。

また、京都大学高等研究院副院長・特別教授をはじめ要職を歴任され、我が国の科学技術の発展に多大な貢献をされている。

本市においても、「京都市バイオシティ構想」の策定委員、同構想を推進する「医工連携プロジェクト検討委員会」の座長を務めていただくとともに、産学公が連携した「京都市地域結集型共同研究事業」の事業総括として、ナノテクノロジーを用いた革新的な医療技術の研究開発に尽力されるなど、京都のライフサイエンス産業の振興に大きく寄与された。

(総合企画局市長公室)